

開催地名：愛知県愛西市	
開催日時	令和元年 11 月 10 日（日） 14：00 ～ 15：30
開催場所	市江地区防災コミュニティセンター
語り部	草 貴子 （宮城県仙台市）
参加者	市江小学校区自主防災連合会 約 70 名
開催経緯	海拔 0 メートル地帯であり、地域住民への防災に対する意識付けが欠かせない区域であるが、伊勢湾台風等の災害経験者も高齢化で減少し、低年齢層への災害伝承が不十分である。東日本大震災の語り部から教訓等を伺って、防災意識の向上を図りたい。
内容	（１）はじめに 私たち、市名坂東町内会は、平成 20 年に設立した現在加入数 186 世帯の町内会である。働き盛りの 40 代、50 代の方と単身赴任家庭が多い中で、私たち女性が立ち上がり、町内会をつくりあげた。役員は現在も女性中心である。平成 22 年に完成した集会所は、緊急時の避難場として防災を強く意識した。スローガンは次の 3 つである。 ・ 地域住民相互の連帯と協調と主体性を持つ町内会 ・ 子供たちの健全育成支援とふるさとづくりを実現する町内会 ・ 災害、防災に適切に対応支援活動ができる町内会 （２）3 月 11 日当日 3 月 11 日、集会所を開けると、女性子どもたち 100 名が避難してきた。大半は町内会未加入のマンション住民だったが、皆受けれた。避難者の中でリーダーと副リーダーを決め、皆の前で紹介して指示に従うようお願いした。泉区は内陸部のため、津波の被害がなかったため、避難所運営は結局 2 日間だけであったが、以下のような自分本位の人に驚かされた。皆さんは万一災害が発生したときには、このような言動には注意してほしい。 ・ ラジオや支援物資を、各家庭に届けてほしいと主張した人がいた ・ 避難所でトイレ清掃当番を作った途端、自宅に戻ってしまった人がいた ・ 地震のせいで子供がパニックになってしまい、勉強ができないと訴えてくる人がいた ・ ボランティアにまったく理解がない人がいた ・ ボランティア活動がまだできない子どもを連れてくる人がいたり、ハンドバックにスカートで来る人がいた

（３）震災後の取組

震災後、地域防災支援組織の実情として、理念のみでは行動が伴わないことや、情報機能が麻痺していたこと等を痛切に感じた。それらの反省をもとに、市名坂小学校校区に新たな枠組みとして、総務班、情報広報班、救援班、食料物資班、衛生班、女性コーディネーターの６つの班構成からなる避難所運営委員会を設立した。

万一の災害時に、地域住民は何をするべきなのかという認識を持つことが最も重要である。そのために、より実践的な施策をもとに、議論を重ね、「いざ」に備える必要がある。また、物質的な援助だけでなく、メンタル的な部分もケアできる体制を目指している。さらに、地域の顔がよく見えることや気軽に声掛けができる雰囲気을考慮し、女性ならではの視点を活かして活動するために女性コーディネーターを設置した。

その他、泉区内ＳＢＬ（仙台市防災リーダー）相互連絡会を発足して、年２回会議を開催したり、方言防災かるたの授業を行ったり、町内会祭りにあわせて防災訓練の実施や手づくりの防災便利マップの作成等、その取組はますます広がっている。専門的な知識もさることながら、お互いが知恵を出し合って、完璧な答えを出せないとしても、その過程を大切に、少しでも前に進めていきたいと思っている。協調性をもってお互いを尊重し、日頃からコミュニケーションをとって過ごすことが大切である。

まちづくりは人づくりであり、人づくりは人と人とのつながりが極めて重要であることを是非とも意識していただき、皆さんが生活される地域で、身の丈にあった自主防災活動に取り組んでいただきたいと思う。



開催地より

東日本大震災を女性の視点から適確にお話いただき、災害への備えや対応能力の向上に役立つ様々なお話を伺うことができた。今後の防災活動に役立てていけると確信している。